

No. 968 (2017. 6.13)

英国の地方版レガシー・プラン

—ロンドン五輪の恩恵の地方への波及—

はじめに

I 地方版レガシー・プランの例

- 1 ウェールズ
- 2 イングランド北西部
- 3 チェシャー・カウンティ
- 4 シェフィールド市

II 地方版レガシー・プランの成果等

- 1 旅行者の誘致
- 2 オリンピック関連契約の受注

3 カルチュラル・オリンピアド
への参加

おわりに

- 近年のオリンピック・パラリンピック競技大会では、開催国・都市が有益な遺産（レガシー）を引き継ぐことが重視されており、2012年のロンドン大会においても、英国全体にレガシーを残すための計画が国と地方の両レベルで策定された。
- 本稿では、地方版レガシー・プランの例として、ネイション・レベルでウェールズを、リージョン・レベルでイングランド北西部を、カウンティ・レベルでチェシャー・カウンティを、都市レベルでシェフィールド市を取り上げ、各プランの内容の一部を紹介する。
- 一般的な地方振興策に加え、地方版レガシー・プランを策定したことは、レガシーを開催都市だけでなく地方にも波及させる上で効果があったと考えられる。

国立国会図書館 調査及び立法考査局
国土交通調査室 専門調査員 やまざき おさむ 山崎 治

はじめに

オリンピック憲章には、国際オリンピック委員会（International Olympic Committee: IOC）の「使命と役割」の1つとして、オリンピック競技大会の有益な遺産（レガシー）¹を開催国と開催都市が引き継ぐよう奨励することが挙げられている²。2012年に英国のロンドンで開催されたオリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2012年大会」）においても、この規定を受けてレガシーが重視され、有形・無形の様々なレガシーを引き継ぐための計画（以下「レガシー・プラン」）が策定された。国レベルでは、文化・メディア・スポーツ省（Department for Culture, Media and Sport: DCMS）が2012年大会の4年前と開催年にレガシー・プランを策定しているが³、地方レベル（図1参照）⁴でも多数のレガシー・プランが策定された。

地方レベルのレガシー・プラン策定を主導したのは、ロンドン2012全国・地域グループ（London 2012 Nations and Regions Group: NRG）⁵であった。NRGは、レガシーの観点から優先すべき項目として、①ビジネス、②観光、③ボランティア活動、④文化、⑤スポーツ／若者、⑥その他のレガシー（①～⑤を通じて紡がれる糸のように実現されるもの）の6項目を挙げた⁶。実際に策定された地方版レガシー・プランでは、それぞれの地域の実情に合わせて項目の優先付けが行われたものと考えられる。

図1 英国のネーション及びリージョン



（出典）筆者作成。

* 本稿におけるインターネット資料の最終アクセス日は2017（平成29）年5月24日である。組織名等には当時のものを含む。

¹ レガシーは、オリンピック競技大会の開催後だけでなく、準備期間中にも生み出される。

² 国際オリンピック委員会「オリンピック憲章〔2016年8月2日から有効〕」p.14. 日本オリンピック委員会ウェブサイト <<http://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2016.pdf>>

³ Department for Culture, Media and Sport, “Before, during and after: making the most of the London 2012 Games,” 2008.6. National Archives website <<http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/+http://www.culture.gov.uk/images/publications/2012LegacyActionPlan.pdf>>; Department for Culture, Media and Sport, “Beyond 2012: The London 2012 Legacy Story,” 2012.3. GOV.UK website <https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/77993/DCMS_Beyond_2012_Legacy_Story.pdf>.

⁴ 連合王国の英国は、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つのネーション（nation）で構成される。イングランドは、ロンドン、北東部、北西部、ヨークシャー・アンド・ザ・ハンバー、西ミッドランド、東ミッドランド、イングランド東部、南西部、南東部の9つのリージョン（region）に分かれている。リージョンにはカウンティ（county）レベルの行政体が含まれ、カウンティ・レベルの行政体にはバラ（borough）、都市（city）等のディストリクト（district）が含まれている。

⁵ 2012年大会の開催が決まる前の2003年に、英国全土がオリンピックから受ける恩恵を最大化することを目標として掲げて設立された組織。イングランドの9つのリージョンとスコットランド、ウェールズ、北アイルランドの代表等で構成された。

⁶ Essex Working Group for the London 2012 Olympic Games and Paralympic Games, “Action Plan: Essex Legacy from the 2012 Games,” 2007, p.5. Southend-on-Sea Borough Council website <<http://democracy.southend.gov.uk/Data/The%20Council/200704261830/Agenda/att10527.pdf>>

本稿では、地方版レガシー・プランの例として、ネイション・レベルでウェールズを、リージョン・レベルでイングランド北西部を、カウンティ・レベルでチェシャー・カウンティ（リージョンはイングランド北西部）を、都市レベルでシェフィールド市（リージョンはヨークシャー・アンド・ザ・ハンバー、カウンティはサウス・ヨークシャー）を取り上げ、各プランの内容の一部を紹介する。

I 地方版レガシー・プランの例

1 ウェールズ

2008年にDCMSが発表したレガシー・プランにおいて2012年大会のレガシーが英国全土に及ぶことが望ましいとされたことを受け、英国議会の下院は2009年にウェールズが受ける恩恵（スポーツ、事前合宿⁷、経済、文化・教育）について調査した報告書⁸を発表した。同報告書で想定されていた恩恵も考慮されたと考えられるが、恩恵を確実なものとするため、ウェールズ政府も、2011年⁹に「2012年ロンドン・オリンピック・パラリンピック競技大会：ウェールズにレガシーを確保するためのウェールズ政府戦略的行動計画（The London 2012 Olympic Games and Paralympic Games: Welsh Government Strategic Action Plan: Securing the Legacy for Wales）」（以下「ウェールズ・プラン」）を策定した。

ウェールズ・プランは、2012年大会及び関連イベントにより、a) 26の競技への200以上の国の参加、b) 4,200人のパラリンピアンを含む20,000人のアスリートの参加、c) 70,000人のボランティアの参加、d) 新たに100万人近くの外国人旅行者の英国訪問、e) 40億人のテレビ視聴、f) 20,000人の公認スポーツ・ジャーナリストと12,000人以上の非公認ジャーナリストによる大会報道、が見込まれると考え、その恩恵をウェールズにも及ぼせるための戦略的行動を求めた。

ウェールズ・プランのビジョンは、ウェールズが2012年大会から受ける経済面、スポーツ面、文化面、社会面の恩恵を最大化することであった。ウェールズ・プランでは、①人々の受入れ、イベント及びスポーツのレガシー（ウェールズを訪れた旅行者の母国との関係を深める等）、②ビジネス創造（ウェールズの革新性、科学技術の高さをアピールする。）、③観光振興（ウェールズの知名度を上げ、ビジター・エコノミー¹⁰の持続的発展を図る。）、④ウェールズの文化（カルチュラル・オリンピアド¹¹に積極的に参加する等の方法により、力強く現代的なウェールズのイメージ・アップを図る。）が重視された。各分野で成果を上げるために重点項目として挙げられたものの一部を示したのが表1である。

⁷ 選手が大会本番でのパフォーマンスの向上を図るため、早めに開催国に入り、コンディションの調整等を行うこと。事前合宿地として選ばれた地域には、経済面、教育・文化面の恩恵が及ぶと考えられる。

⁸ House of Commons Welsh Affairs Committee, “Potential Benefits of the 2012 Olympics and Paralympics for Wales,” HC 162, 2009.5.22. UK Parliament website <<https://www.publications.parliament.uk/pa/cm200809/cmsselect/cmwelaf/162/162.pdf>>

⁹ ウェールズ・プランの資料には発表年が記されていないが、資料の中に2012年大会まで300日という記述が見られる（“The London 2012 Olympic Games and Paralympic Games: Welsh Government Strategic Action Plan: Securing the Legacy for Wales.” National Assembly for Wales website <<http://www.assembly.wales/deposited%20papers/dp-1382-11-16%20the%20london%202012%20olympic%20games%20and%20paralympic%20games%20welsh%20government%20strategic%20action%20plan%20securin-01112011-225343/dp-1382-11-16-english.pdf>>）。

¹⁰ ビジター・エコノミー（visitor economy）とは、観光（tourism）とほぼ同義であるが、観光客だけでなく、ビジネス目的の滞在、親類・友人の訪問等、全ての形態の訪問によって形成される市場を視野に入れた言葉。

¹¹ カルチュラル・オリンピアドは、オリンピック開催国において大会開催までの4年間に行われる文化プログラムで、大会の組織委員会が必ず実施することになっている。2012年大会では、文化・芸術に関わるパフォーマンスや展示、舞台公演等が、それまでにない規模で行われた。

表1 ウェールズ・プランで示された重点項目例

<p>① 人々の受入れ、イベント及びスポーツのレガシー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前合宿（選手が大会本番でのパフォーマンスの向上を図るため、早めに開催国に入り、コンディションの調整等を行うこと）の誘致 ・ウェールズの有名アスリートの協力を得た広報 ・オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレー ・オリンピックにおけるラグビーの試合の開催（男女合わせて11試合） ・スポーツ・イベントの開催（2012年6月にカーディフ湾で開催されるワールドカップ・カーヌー・スラローム大会等）
<p>② ビジネス創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス投資（オリンピック関連契約の受注システムである CompeteFor の活用等） ・英国貿易投資総省（UK Trade & Investment: UKTI）のレガシー・プログラムに従ったビジネス機会の創出（大会前、大会中、大会後それぞれの活動）
<p>③ 観光振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジット・ウェールズ・キャンペーン（電子化された顧客関連性管理（Customer Relationship Management: CRM）、ソーシャルメディア等を使い、ウェールズ・ブランドの浸透を図る。） ・「Wales View Magazine」へのオリンピック関連記事の掲載、観光広報サイトにおける情報の更新・オリンピック関連のマルチメディア・コンテンツの掲載 ・ソーシャルメディア、大きな影響力を持つ人のネットワーク等を使った広報 ・各種メディアの活用（ロンドンのメディア・センター、影響力が大きいブロガー、ジャーナリストの利用等） ・英国政府観光庁（VisitBritain）との協働、GREAT キャンペーン（英国の持つ様々な可能性を全世界で紹介し、英国の観光やビジネスの機会を最大化するため、英国外務省、英国貿易投資総省、英国政府観光庁、ブリティッシュ・カウンシル等が実施）を使った広報
<p>④ ウェールズの文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「Power of the Flame」プロジェクト（地域活性化を支援する非営利団体のレガシー・トラスト UK（Legacy Trust UK）が285万ポンドの資金を提供。展覧会、出版、映画上映、教育的ワークショップ、ウェールズ語の劇の上演、障害者芸術の披露等を行う。） ・「Festival 2012」（世界中から有名アーティストが集まる英国最大の芸術祭） ・「Adain Avion」（2012年夏にウェールズを回るコミュニティ・アートスペース） ・「Inspire Programme」（2012年大会に関連して行われる優れた非営利プロジェクト（ビジネス、教育、スポーツ、持続可能性、ボランティア、文化の6分野）に対してインスパイア・マークを付与するもので、ウェールズでは35以上のプロジェクトが認定された。） ・「Gemau Cymru」（障害者スポーツも組み込んだレガシー・プロジェクト）

（出典）“The London 2012 Olympic Games and Paralympic Games: Welsh Government Strategic Action Plan: Securing the Legacy for Wales.” National Assembly for Wales website <<http://www.assembly.wales/deposited%20papers/dp-1382-11-16%20the%20london%202012%20olympic%20games%20and%20paralympic%20games%20welsh%20government%20strategic%20action%20plan%20securin-01112011-225343/dp-1382-11-16-english.pdf>> を基に筆者作成。

2 イングランド北西部

イングランド北西部では、北西部地域開発庁（Northwest Regional Development Agency: NWDA）が、2007年5月に「2012年大会に向けた北西部レガシー・フレームワーク（be inspired: Northwest Legacy Framework for the 2012 Games）」（以下「北西部プラン」）¹²を公表した¹³。

北西部プランのビジョンは、「北西部は誇り高いスポーツ資産を有しており、それをこれまでで最も素晴らしいオリンピック・パラリンピック競技大会にするために利用する」というものであった。北西部プランは、そのビジョンを実現するため、自らの地方コミュニティが持つ強さ、決断力、競争精神を活用するとし、そのことにより経済面、スポーツ面、健康面、社会面の利益が最大化され、北西部の住民に2012年大会の誇り、情熱、精神に関わる機会を与えることになると考えた。

¹² Northwest Regional Development Agency Marketing Department, “be inspired: Northwest Legacy Framework for the 2012 Games,” 2007.5. Lancashire County Council website <<http://www3.lancashire.gov.uk/council/meetings/displayFile.asp?FTYPE=A&FILEID=30041>>

¹³ 同プランについては、2009年7月に「Everyone’s 2012」というタイトルの改訂版が発表されている。

北西部プランは、2012年大会のレガシーを、①スポーツ活動、②ビジネス、③スキル及びボランティア、④観光及びビジター・エコノミー、⑤カルチュラル・オリンピアド、⑥主要イベント、の6つのテーマに分けて整理した。各テーマの基本方針をまとめたのが表2で、それらの基本方針に従って具体的施策を策定する際には、a) 持続可能性、b) 質、多様性及びコミュニティの結束、c) 健康及び幸福感、d) コミュニケーション及び参加、が考慮された。

表2 北西部プランで示された基本方針

①スポーツ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・単独の組織だけでこのレガシーを実現するのは不可能である。我々は、スポーツ関連組織が協力して2012年大会を成功に導く環境を整備する。 ・そのための北西部における主導組織は、UK スポーツ（英国のエリートスポーツ政策を担う非省庁公的機関）、ユース・スポーツ・トラスト（学校体育の振興組織）、地方自治体、教育部門等のパートナーから支援を受けているスポーツ・イングランド（イングランドにおける草の根スポーツの振興等を図る組織）である。北西部国民保健サービスは、地域のプライマリー・ケア・サービスの支援を受け、スポーツ活動への参加による健康面の利益の最大化を図る。 ・カウンティのスポーツ・パートナーシップやコミュニティのスポーツ・ネットワークも重要な役割を果たす。 ・スポーツ・イングランドの調査によると、より多くの人をスポーツ活動や活動的なレクリエーションに参加させるには、2012年大会のレガシーを作り上げるという方法が有効であると考えられる。
②ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・北西部地域開発庁（NWDA）が北西部の戦略的リーダーシップを取る。ビジネスを支援する組織は他にも多数あり、北西部ビジネス・フォーラムが協力を促進する。 ・NWDA は、北西部ビジネス・リンク（北西部の中小企業のビジネスを支援するために設立された政府内の執行機関）と協働し、北西部の企業が供給能力向上のための支援を受けるための簡易ルートを提供する。北西部ビジネス・リンクは、情報・診断・仲介サービス、専門家によるアドバイス等を通じた支援を行う。 ・北西部は、ロンドン・オリンピック・パラリンピック組織委員会（London Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games: LOCOG）、オリンピック会場建設委員会（Olympic Delivery Authority: ODA）等の大会運営団体と協力し、国内のビジネス・ネットワークの発展を支援する。
③スキル及びボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のスキル・パートナーシップ（スキル、経験を有する人材を活用するための組織）は、スキル・レガシーを残すための戦略的指導者としての役割を果たす。時には、戦略的目標を達成するため、パートナー、産業別技能団体（Sector Skills）、工場等の工程改善を進める団体（Productivity Alliance）と協力する。 ・北西部スポーツ・ボランティアは、ボランティア・レガシーを残すための戦略的指導者としての役割を果たす。また、その地域のボランティア・レガシー活動に対し、全体論的で横断的なアプローチを取る。
④観光及びビジター・エコノミー	<ul style="list-style-type: none"> ・NWDA は、英国の5つの観光局、重要な地域の利害関係者のグループ、地方自治体と協力し、地域の観光戦略を策定する。その際、地域のビジター・エコノミー・フォーラム、地域の観光事業団体の支援を受ける。
⑤カルチュラル・オリンピアド	<ul style="list-style-type: none"> ・カルチャー・ノースウェスト（Culture Northwest）は、北西部で開催されるカルチュラル・オリンピアドに対する協力において、プロジェクトを実施するためのパートナーを紹介する等、戦略的指導者としての役割を果たす（リージョン内の13の地域に配置されたクリエイティブ・プログラマーに対する協力がメイン）。
⑥主要イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・主要イベントは、地方自治体、観光局、イベント・プロモーターを含む広範囲の地方組織により実施されるが、地域戦略の展開の観点から、NWDA が主導的役割を果たす。

（出典）Northwest Regional Development Agency Marketing Department, “be inspired: Northwest Legacy Framework for the 2012 Games,” 2007.5, pp.11-38. Lancashire County Council website <<http://www3.lancashire.gov.uk/council/meetings/displayFile.asp?FTYPE=A&FILEID=30041>> を基に筆者作成。

3 チェシャー・カウンティ

チェシャー・カウンティでは、チェシャー及びウォリントン¹⁴2012年大会運営グループ（Cheshire & Warrington 2012 Steering Group）が、2008年に「2012年大会のためのチェシャー及びウォリントン・レガシー・フレームワーク（embrace the games: Cheshire & Warrington Legacy Framework for the London 2012 Games）」（以下「チェシャー・プラン」）¹⁵を発表した。

チェシャー・プランのビジョンは、2012年大会を契機として、質の高いスポーツ活動、芸術・文化、観光、ビジネスの機会を確保することにより、個人及びコミュニティが生活及び社会をより良いものに変え、チェシャー及びウォリントンが継続的かつ有益なレガシーを獲得するというものであった。

このビジョンを実現するため、チェシャー・プランは、①スポーツ活動（スポーツを行う環境を整えることにより、能力のある若いアスリートが将来のオリンピック・パラリンピック競技大会に参加できるようになる。また、オリンピックの影響により、全ての世代でスポーツ活動を行う人が増えれば、健康が増進され、幸福度が上がる。）、②カルチュラル・オリンピアド（文化プログラムへの参加を通じ、地方の住民、コミュニティ、ビジネスが2012年大会に関わる機会を提供する。地方プロジェクトにおいて、イングランド北西部は、文化、教育、スポーツに共通する活動として、「我々は参加する（We Play）」というテーマを追求することを選ぶ。）、③ビジター・エコノミー（ロンドンから電車で2時間というロケーションを生かし、魅力的な観光機会を提供するには、施設・インフラの改善、ビジネス旅行者だけでなく国内外の観光旅行者を誘致する広報が必要となる。）、④ビジネス機会（2012年大会により広範囲のビジネス機会が生まれる。国全体では7,000の直接的な契約が結ばれる。その波及効果まで含めると75,000のビジネス機会が生まれるが、その機会は地方でも利用することができる。）、の4テーマに分け、レガシーを実現するための行動を明らかにした（表3）。そして、それらの行動は、表4のロードマップに従って実施することとされた。

表3 チェシャー・プランで示されたレガシー実現のための主な行動

①スポーツ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすいスポーツ施設を増やす（国際クラスのスポーツ環境が整った施設を含む）。 ・「活動的なライフスタイル」を勧める健康キャンペーンを実施する。 ・チェシャー及びウォリントンのオリンピック選手及びパラリンピック選手によるスポーツ大使プログラムを展開する。 ・マイナーなスポーツを行っている、地域の才能あるアスリートを支援するプログラムを実施する。
②カルチュラル・オリンピアド	<ul style="list-style-type: none"> ・イングランド北西部の文化、教育、スポーツに共通するテーマである「我々は参加する（We Play）」につながる活動を展開する。 ・公的組織、民間組織、ボランティア部門が主催するイベント、フェスティバル、展覧会に関する地域データベースを充実させる。 ・地域のアーティスト、企業がカルチュラル・オリンピアドの式典、重要イベントに関わる機会を作る。

¹⁴ ウォリントンは、チェシャー・カウンティの都市（unitary authority）の1つ。

¹⁵ Cheshire & Warrington 2012 Steering Group, “embrace the games: Cheshire & Warrington Legacy Framework for the London 2012 Games.” Cheshire East Council website <<http://moderngov.cheshireeast.gov.uk/ecminutes/mgConvert2PDF.aspx?ID=2478>>

③ビジター・エコノミー	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年大会及び他の主要イベントと関係付けたイベント・カレンダーを作成し、馬術の中心地としてのチェシャー及びウォリントンの評価を確立する。 ・チェシャーの庭園をアピールするプロジェクト等を進め、潜在的旅行者を誘致する。 ・ツアー・オペレーター及び鉄道会社と協力し、ロンドンからの移動が容易な地域であることの周知を図り、2012年大会後はアクセスを更に改善する。 ・環境を重視する旅行者の需要を満たすような観光商品を開発し、優位性を確立する。 ・ウォリントンの中心街を再生し、2012年大会と関連した視察旅行、ビジネス会議、主要スポーツ・イベント等の誘致を図る。
④ビジネス機会	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なビジネス・ネットワーク・イベントを実施し、地域内での情報共有、ベスト・プラクティスの確認、助言・指導の提供を行えるようにする。 ・北西部ビジネス・リンク及びロンドン・ビジネス・ネットワーク（2012年大会で生じる契約機会を英国企業が獲得できるよう支援する事業者ネットワーク）と連携し、ビジネス・ネットワーク活動の促進を図る。 ・CompeteFor への登録指導を含め、2012年大会のビジネス機会を捉える情報を提供する。 ・地方ビジネスとスポーツ、文化、観光部門のパートナーシップを改善する。

(出典) Cheshire & Warrington 2012 Steering Group, "embrace the games: Cheshire & Warrington Legacy Framework for the London 2012 Games," pp.9-15. Cheshire East Council website <<http://moderngov.cheshireeast.gov.uk/ecminutes/mgConvert2PDF.aspx?ID=2478>> を基に筆者作成。

表4 チェシャー・プランで示されたロードマップ

2008年	<ul style="list-style-type: none"> ・イングランド北西部の事前合宿プログラムの開始（8月9月） ・インスパイア・マーク・プログラム（2012年大会に触発されて行う非営利事業に対し「インスパイア・マーク」の使用権を付与）の開始 ・カルチュラル・オリンピアド・プログラムの開始（9月） ・Get Set プログラム（学校教員等に指導のアイデア、ツールを提供）、継続教育カレッジ・プログラム（16歳から19歳の世代のスポーツ離れを防止）の開始（9月） ・チェシャー及びウォリントンにおけるビジネス・ネットワーク活動の開始
2009年/ 2010年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のスポーツ・ヴィレッジ（各種スポーツができる複合施設）プログラムの開始 ・イングランド北西部のレガシー・トラスト UK プログラムの実施 ・パーソナル・ベスト（ボランティア活動を通して就業スキルを学ぶ）プログラム、ボランティア・プログラムの一部の開始 ・ナショナル・オリンピック・デイ（6月23日） ・カルチュラル・オリンピアド・プログラム、Get Set プログラムの継続 ・ビジネス・ネットワーク活動の継続 ・イングランド北西部で開催される注目度が高いスポーツ・イベントのカレンダー作成
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年大会のチケットの一般発売開始 ・オリンピックの聖火リレーのルートの発表 ・ナショナル・オリンピック・デイ（6月23日） ・カルチュラル・オリンピアド・プログラム、Get Set プログラムの継続 ・ビジネス・ネットワーク活動の継続 ・イングランド北西部で開催される注目度が高いスポーツ・イベントのカレンダー作成
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの聖火リレーのルートの発表 ・オリンピック・パラリンピックの聖火リレー ・事前合宿 ・ナショナル・オリンピック・デイ（6月23日） ・オリンピックの開催（7月27日～8月12日） ・パラリンピックの開催（8月29日～9月9日）

2012年以降	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機会が増え、健康が改善し、コミュニティの満足度が向上することにより、スポーツのレガシーが確立される。 ・質、創造性、参加のレガシーを生み出す文化・創造部門が確立される。 ・ボランティア活動へのアクセス、教育、雇用が改善することにより、ボランティア活動の基盤が強化される。 ・競争に勝ち、ビジネス機会が獲得される。 ・質の高い観光サービスが提供され、ビジター・エコノミーが拡大する。
---------	---

(注) 2009年と2010年で示されている内容は同じ。

(出典) Cheshire & Warrington 2012 Steering Group, “embrace the games: Cheshire & Warrington Legacy Framework for the London 2012 Games,” p.5. Cheshire East Council website <<http://modern.gov.cheshireeast.gov.uk/ecminutes/mgConvert2PDF.aspx?ID=2478>> を基に筆者作成。

4 シェフィールド市

シェフィールド市は、2009年7月に「スポーツの炎を燃やす 2009～2012年(Sheffield - Lighting the Frame for Sport 2009-2012)」(以下「シェフィールド・プラン」)¹⁶を発表した。

シェフィールド・プランの基本は、「レガシー・ナウ (Legacy Now)」という言葉で表現された。この言葉には、a) オリンピックの効果を最大化する機会は、2012年大会後より大会前の方が多く認識している、b) 過去の大会がスポーツ参加に与えた影響について市が調査したところ、スポーツ参加増を図るには計画及び努力が必要であることが明らかになった、c) 本当のレガシーは、オリンピックを広範囲の市の戦略(公衆衛生、経済、社会等)と統合し、新たな勢い、集中、加速を創り出すところから生まれる、という意味が込められていた。

シェフィールド・プランは、①スポーツ活動への参加機会の増加、②コーチ及びボランティア、③トップ・レベルのスポーツ、④カルチュラル・オリンピアド、⑤主要スポーツ・イベント及び事前合宿、⑥ビジネス促進の6項目について、2012年大会が開催される年までの3年間に取るべき行動を挙げた。その中から主なものを抜き出したのが表5である。

表5 シェフィールド・プランで取るべきとされた主な行動

①スポーツ活動への参加機会の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の主要スポーツ・イベントと連動したスポーツ促進プログラムを広く展開し、既に成功しているプログラムの価値を高める。 ・地域のスポーツ・クラブが、適切なサービス・レベルを維持し、新たな会員を受け入れることが可能であると住民に知らせることができるようにする。 ・障害者スポーツ・クラブを強化する。 ・学校の水泳指導、大人向けの受講料10ポンド指導プログラムの強化及び水泳場への投資により、泳ぐことができる人を増やす。 ・高齢者がスポーツ活動に参加する機会を増やす。
②コーチ及びボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・高度なリーダーシップを身に付けるための教育の場の支援が可能なインフラを整備する。 ・ボランティアとして参加できる分野を、例えば、スポーツ・イベント、スポーツ・メディア、情報通信技術、ジャーナリズム、コーチ、クラブ運営などに広げる。 ・全てのレベルのコーチのスキルを向上させられるサポート・システムを構築する。 ・個々人のスキル向上をサポートできるよう、民間部門と連携する。

¹⁶ Sheffield City Council, “Sheffield - Lighting the Flame for Sport 2009-2012,” 2009.7.

③ トップ・レベルのスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・シェフィールドを中心に活動する国内統括団体（飛び込み、バレーボール、ボクシング、卓球）、国内評価が高いクラブと協働する。 ・潜在能力は高いが、まだ育成資金を得ていないアスリートをスポーツ科学、スポーツ治療、コーチと親の教育、メディア教育、広報等の分野でサポートするプログラムを組む。 ・特に高レベルのコーチの支援を目的とした教育プログラムを組む。 ・アスリートが地域の誇りを高めるスポーツ大使として活動することを促進する。
④ カルチュラル・オリンピアド	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の人生をより文化的にし、新たな創造的体験の機会を与えるカルチュラル・オリンピアドの地域プログラムで大きなシェアを獲得する。 ・2012年大会を通じて提供される機会を生かす資金を得るため、スポーツ部門と文化部門の間のパートナーシップを効果的に展開する。 ・2011年に開催される全国学校大会を市の子供フェスティバルと結び付けることにより、前例のないスポーツと文化の祭典を演出する。 ・スポーツと文化の両活動への注意を喚起するため、カルチュラル・オリンピアドとシェフィールド音楽都市フェスティバルとのパートナーシップを進める。
⑤ 主要スポーツ・イベント及び事前合宿	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が参加する多様なプログラムと観戦イベントの誘致を図る。 ・事前合宿につながる既存の関係を強化する。 ・予想される経済的、文化的及び社会的利益や市の施設、専門技術、既存のコミュニティ・プログラムとの整合性を考慮し、今後受け入れるイベントと合宿を選択する。 ・住民が2012年大会の前後に市内で質の高いボランティア活動を行えるようにする。
⑥ ビジネス促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高レベルのスポーツ・ビジネス戦略を策定し、既存の強み、ビジネスとスポーツが協働する新たな機会を生かすことができる優先分野を決める。 ・オリンピックのビジネス活用を最大化するため、ヨークシャー・ゴールド・ビジネス・クラブ（大規模プロジェクトのビジネス機会を最大化するネットワーク）と協力する。 ・CompeteForの活用を進める。

（出典）Sheffield City Council, “Sheffield - Lighting the Flame for Sport 2009-2012,” 2009.7, pp.23-30 を基に筆者作成。

II 地方版レガシー・プランの成果等

地方版レガシー・プランがもたらした成果と一般的な地域振興策が生み出した成果を区別して評価することはできないが、2012年大会のレガシーの多くは地方にも及んだと考えられる。本章では、地方版レガシー・プランにおいて重視されることが多い項目の中から、①旅行者の誘致、②オリンピック関連契約の受注（受注システム CompeteFor¹⁷の活用）、③カルチュラル・オリンピアドへの参加を選び、地方が受けたと考えられる恩恵を確認する。

1 旅行者の誘致

地方版レガシー・プランでは英国国民の国内旅行も誘致対象としているケースが多数見られるが、経済効果の面で期待が高かったのは外国人旅行者の誘致である。2012年大会により英国に対する注目度が高まった機会を捉えた観光キャンペーン等が功を奏し、訪英外国人旅行者数は、2010年から増加傾向を示している¹⁸。2013年のネイション及びリージョン別データを見ても、訪英外国人旅行者消費額は、北東部以外の全地域で前年より増加しており（表6）、観光面の経済効果は地方にも及んだと考えられる。

¹⁷ 本稿で取り上げた4つの例のうち、北西部プランには CompeteFor に関する記述が見られないが、北西部プランは CompeteFor のサービスが開始された2008年より前に発表されている。

¹⁸ “Travel trends Articles.” Office for National Statistics website <<https://www.ons.gov.uk/peoplepopulationandcommunity/leisureandtourism/articles/traveltrends/previousReleases>>

表6 訪英外国人旅行者の消費額の推移（訪問地域別）

（単位：百万ポンド）

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
イングランド	14,426	14,620 [↑]	15,657 [↑]	16,262 [↑]	18,654 [↑]	19,081 [↑]	19,427 [↑]
ロンドン	8,238	8,741 [↑]	9,411 [↑]	10,075 [↑]	11,496 [↑]	11,822 [↑]	11,919 [↑]
北東部	203	204 [↑]	218 [↑]	287 [↑]	208	216 [↑]	272 [↑]
北西部	801	1,021 [↑]	956	887	1,090 [↑]	1,115 [↑]	1,211 [↑]
ヨークシャー	461	417	482 [↑]	433	581 [↑]	571	516
西ミッドランド	595	549	571 [↑]	578 [↑]	843 [↑]	762	816 [↑]
東ミッドランド	393	325	387 [↑]	361	457 [↑]	429	434 [↑]
イングランド東部	782	737	768 [↑]	773 [↑]	887 [↑]	967 [↑]	960
南西部	1,087	910	955 [↑]	971 [↑]	1,088 [↑]	1,039	1,056 [↑]
南東部	1,863	1,714	1,908 [↑]	1,898	2,003 [↑]	2,160 [↑]	2,242 [↑]
スコットランド	1,369	1,455 [↑]	1,494 [↑]	1,401	1,671 [↑]	1,840 [↑]	1,695
ウェールズ	332	333 [↑]	328	346 [↑]	352 [↑]	368 [↑]	410 [↑]
北アイルランド	193	196 [↑]	220 [↑]	207	208 [↑]	231 [↑]	199
英国全体	16,500	16,778 [↑]	17,873 [↑]	18,505 [↑]	21,089 [↑]	21,715 [↑]	21,941 [↑]

(注) 前年との比較で増加している場合は [↑] を付けている。

(出典) “International Passenger Survey, Office for National Statistics.” VisitBritain website <https://www.visitbritain.org/sites/default/files/vb-corporate/Documents-Library/documents/regional_spread_by_year_for_website_flat_file_1999_-_2015.xls> を基に筆者作成。

2 オリンピック関連契約の受注

CompeteFor には、185,000 以上の事業者が登録を行い、16,000 を超えるビジネス案件情報が掲載された¹⁹。成立した契約の4分の3は中小事業者が受注し、3分の2はロンドン以外の事業者が受注した²⁰。ロンドン・オリンピック・パラリンピック組織委員会（LOCOG）が発表した2012年9月までのCompeteForの登録事業者数（約154,000）と契約数（約3,700）のデータをネイション及びリージョン別に見ても、ロンドンが占める割合は3分の1程度にとどまっており、CompeteForの活用が英国全体に広がったことが分かる²¹。

また、英国では、オリンピック関連の契約を受注したことによってノウハウを獲得し、技術力を高めた英国企業が、その実績をオリンピック後の商業活動においてアピールできるよう、供給者認証スキーム（Supplier Recognition Scheme）が立ち上げられた。従来、オリンピック関連の契約受注者は、自社とオリンピックを関連付けて商業活動を行うことができなかったが、申請を行い、サービス供給者としてのライセンス（認証）を得れば、そのライセンスを国内外

¹⁹ CompeteFor は、2012年大会終了後も、オリンピック・パーク改修関連事業等で活用されている。

²⁰ “Welcome to CompeteFor.” CompeteFor website <<https://www.competefor.com/>>

²¹ 山崎治「オリンピックの経済効果を地方にまで波及させた英国—東京オリンピックに対する懸念の解消に向け—」『レファレンス』771号、2015.4. p.37. <http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9227945_po_077102.pdf?contentNo=1>

の見本市や契約入札の機会に利用することができるようになった（2013年1月から2015年12月までの間に限り規制を緩和）。同スキームにより800以上の英国企業が得たライセンス²²は、2013年以降に開催されたオリンピック・パラリンピック競技大会、サッカーのワールドカップ等で活用された。²³

3 カルチュラル・オリンピアドへの参加

カルチュラル・オリンピアドについては、英国全土で行われた117,717²⁴のイベントに4340万人が参加しているが²⁵、その6割に当たる2580万人はロンドン以外の地域で開催されたイベントの参加者であった²⁶。カルチュラル・オリンピアドのフィナーレを飾った「ロンドン2012 フェスティバル」（2012年6月21日～9月9日に開催）のイベントも、開催地をロンドン以外の地域まで広げる形で実施された。例えば、6月21日に開催されたオープニング・イベントは、スコットランド（スターリング城前における野外コンサート）、湖水地方のウィンダミア（花火とパーカッションの協演）、バーミンガム（中心街に巨大な船を設営して行ったダンサーと空中曲芸師のパフォーマンス）、北アイルランドのロンドンデリー（「世界平和の日」コンサート）、ウェールズ（古代遺跡ストーンヘンジの原寸大ゴム風船製レプリカ「*Sacrilege*」の国内外巡回展示を国立植物園から開始）で行われた²⁷。ネイション及びリージョン別のイベント数、参加者数の比率を見ると、ロンドン以外の地域でもバランス良くイベントが開催されたことが分かる²⁸。

おわりに

日本でも、2020（平成32）年に東京で開催予定のオリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年大会」）のレガシーを確保するための計画²⁹が策定されており、レガシーという言葉の普及が進んでいる。内閣府は2015（平成27）年6月に2020年大会に関する世論調査を

²² Cabinet Office, “Inspired by 2012: the legacy from the Olympic and Paralympic Games: Fourth annual report: summer 2016,” 2016.8, p.46. GOV.UK website <https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/544197/1776-E_Legacy_Report_2016_ACCESSIBLE.pdf>

²³ 自治体国際化協会ロンドン事務所「2012年ロンドンオリンピック・レガシーの概要」『Clair Report』No.402, 2014.10.2, pp.41-42. <<http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/402.pdf>>

²⁴ イベント数については「177,717」という数値が引用されることが多いが、「117,717」が正しい数値である可能性が高い（太下義之「オリンピック文化プログラムに関する研究および「地域版アーツカウンシル」の提言」『季刊政策・経営研究』2015(2・3), 2015.4, p.180. 三菱UFJリサーチ&コンサルティングウェブサイト <http://www.murc.jp/uploads/2015/05/201502-03_all.pdf>）。

²⁵ Beatriz Garcia, “London 2012 Cultural Olympiad Evaluation: Final Report,” 2013.4.25, pp.17, 19. Institute of Cultural Capital website <https://iccliverpool.ac.uk/wp-content/uploads/2013/08/London_2012_Cultural_Olympiad_Evaluation_ICC.pdf>

²⁶ Arts Council England and LOCOG, *Reflections on the Cultural Olympiad and London 2012 Festival*, 2013.4, p.6. Dr Beatriz Garcia website <http://www.beatrizgarcia.net/wp-content/uploads/2013/05/Reflections_on_the_Cultural_Olympiad_and_London_2012_Festival.pdf>

²⁷ “London 2012 Festival launches,” 2012.6.25. GOV.UK website <<https://www.gov.uk/government/news/london-2012-festival-launches>>

²⁸ 福土輝美「近代オリンピックと文化プログラム—2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて—」『レファレンス』778号, 2015.11, p.13. <http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9535017_po_077801.pdf?contentNo=1>

²⁹ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「東京2020アクション&レガシープラン2016～東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう。～」2016.7. <<https://tokyo2020.jp/jp/games/legacy/items/legacy-report.pdf>>

行っているが、「東京オリンピック・パラリンピック開催で期待される効果」を問う質問（複数回答）³⁰に対し回答が多かったのは「障がい者への理解の向上」（44.4%で1番目）と「スポーツ（障がい者スポーツを含む）の振興」（39.2%で2番目）であった。これらの効果が及ぶ地域としては日本全体がイメージされているものと考えられる。効果が及ぶ地域として東京周辺が想定される「空港・鉄道・道路などの交通インフラの利便性向上」（38.5%）と「バリアフリーの導入など、すべての人に優しい街づくりの促進」（38.4%）は、3番目と4番目に多い回答を得ており、地方の比重が高いと考えられる「観光客の増加」（37.7%で5番目）、「地域の活性化」（32.6%で8番目）、「経済波及効果や雇用の創出」（32.0%で9番目）、「東日本大震災などの被災地の復興促進」（24.2%で12番目）より大きな期待が寄せられていた。また、「文化の振興」と回答した人は少なく（18.5%で16番目）、経済的レガシーの地方への波及に対する期待度やカルチュラル・オリンピックの認知度が低かったことがうかがえる。

2015（平成27）年3月、2020年大会を機に各地域のあらゆる魅力を改めて発掘・整理し、意欲ある地域が手を携えて日本の総合力を発信することを目的に、「2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合」が発足した。2017（平成29）年2月13日現在の参加自治体は464団体（347市、100町、17村）となっている³¹。2020年大会を機に地方の活性化を促進するには、このような地域連携を図った上で、各地域で効果的な取組を行うことが必要になる。取組の具体化を図る際には、英国のような地方版レガシー・プランを策定するという方法も選択肢の1つになり得るように思われる。

³⁰ 「図10 東京オリンピック・パラリンピック開催で期待される効果」内閣府世論調査ウェブサイト <<http://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-tokyo/zh/z10.html>>

³¹ 「2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合 参加自治体一覧」（2017年2月13日現在）三条市ウェブサイト <<http://www.city.sanjo.niigata.jp/common/000107721.pdf>>